

今日も「丁あがり」

第32話

謙虚に真似した先に
きっとオリジナルに到達できる!の巻



皆さん、こんにちは！ 素敵な女性を前にしても目を奪われることなく黙々と社内の整理整頓に励んでいるロボストス高垣でございます。

さて、僕が真剣に社内の5Sやカイゼンを意識するようになったのは2年前。最近ようやく社員の意識に浸透し、作業改善の提案が出てくるようになってきました。まだまだ。本家の世界一の自動車メーカーの工場はどれほどか。いまこそ見てみたいと、トヨタに行ってみました！

設備の工夫が僕の想像の域を超えていなかったのは意外でした。アルミパイプで作られたオリジナルの台車があって、それを直線的に動かすようにレールが敷いてあったり、電動工具が必要な本数が取りやすく揃えられていたり、当然ながら業務効率化の工夫はハイレベルに行なわれているわけです。部品の取り違えを防ぐすごいシステムもありました。が、休憩時間の設定からファイルの揃え方、服装まで限なくチェックし

てみれば、なかには弊社のほうが徹底している部分もチラホラ。でも流石だなと思ったのは、工場のスタッフが一秒の短縮を競うように真剣に作業していること。世界一を実現しているのはやはり「人の意識」でした。一朝一夕で真似できるものじゃないけど、すぐ真似できる工夫は取り入れて、工夫を重ねる過程で心を磨くのだと気が入りました。というところで、コピーつながりで完全複製の案件を見ていきましょう！

品質・精度を求められる複製

一発目はマルヤマ土壤消毒機の廃番シャフトです。毒物・劇物に触れる部品なので細心の注意を払い、何本もサンプルを集めて何度も計測。県立試験場に金属成分分析も依頼し



写真1：マルヤマ土壤消毒機のシャフト。両端部は材質が違う部品を圧入している



写真2：アマゾーネ・ブロードキャスターのブラケット。農家のこだわりに応える技術を磨き続けますよ〜♪



写真3：トラクターのリアリンク。8社が関わって仕上げた。調整も含めて、モノづくりは簡単ではないのだ！



写真4：破損した純正部品に寸法調整を加えたランドクルーザーのクラッチ部分のギヤ。この品質で仕上げられる会社はそうそうないだろう



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス 代表取締役社長。

ました。これでダメなら仕方ないと思えるまで考え尽くしたけど、本音は作りたくありません。依頼主であるディーラーさんからの「高垣がやり切ったと思えていたら30本作ってくれ」という信頼あふれる言葉に心が震えて、三十丁あがり〜♪

続いて二発目。アマゾーネのブロードキャスターの散布幅を抑えたというところで、左右ブラケットを完コピした上で全長を短くするというオーダー。「渡した純正部品を切っちゃったの!？」と納品時に農家さんに聞かれるほどばつちりキメて、二

丁あがり〜♪

三発目はディーラーさんからの製造中止になったトラクターのリアリンクの復活案件。見積もりに手間がかかり時間を食ってしまいました。が、純正以上の品質で複製して、5台分の左右合わせて十丁あがり〜♪

最後は、番外編。「トヨタのランドクルーザーのクラッチ部分のギヤを製作して欲しい」と。弊社は農業機械専門なので自動車部品の仕事は受けませんが、社用車の整備屋さんからの依頼だったので、特別に製作。難解な形状であることは理解してもらえるとありますが、サクッと本気を出して、一丁あがり〜♪

規模は敵わずとも、近い将来、トヨタが驚くようなロボストスに育てたいですね。今月はここで筆を置いて、ボール盤磨きに戻らせていただきます。ということ、今月は四十三丁あがり〜♪